

YRS
ユアーズ



横浜ラポール聴覚障害者情報提供施設だより

横浜ウェーブ

第196号

トピックス

新年度を迎えて

令和4年度にあたって

施設長 竹内 恵子

令和3年度は、コロナ関係の事案が急に身近になり、発生頻度もこれまでとは段違いの一年でした。1年延期となっていた第四期指定管理者の選定委員会が昨年6月に開催され、当事業団が、情報提供施設を含む横浜ラポールの指定管理者に選定されました。以下、令和3年度事業の実施状況についてご報告します。

◆**通訳派遣・研修事業**:派遣・紹介人数は、手話通訳10,318人(令和2年度:8,542人)、要約筆記1,102人(令和2年度:527人)、総合計11,420人(令和2年度:9,069人)となり、手話は前年比120%、要約は209%と大幅に増加しました。新型コロナワクチン大規模接種会場での情報保障については、遠隔通訳用のタブレットが配置されましたが、多くの方は通訳派遣を利用されたようです。感染者対応の遠隔手話通訳サービス(県事業)は、県内約5,000か所の医療機関にQRコードが配布されたこともあり、横浜市民が感染、感染疑いの場合も、以前よりは円滑に引継ぎが出来るようになりました。横浜として導入した「J-TALK」(株)アステムの遠隔手話通訳アプリ)については、コロナ関係に限らず利用者のニーズにより都度判断して対応しており、令和3年度の利用登録者は71人、利用実績は47件となっています。

◆**派遣事業実施要綱の改訂**:横浜市要綱のうち報酬関係の大幅な改訂(報酬のベースアップ、派遣領域による報酬差の廃止、手話と要約の報酬差の是正、研修出席時の交通費支給、オンライン通訳を自宅で実施した場合の手当支給)がありました。また、登録手話通訳者の労働環境の改善を目的とし、前年に一定の稼働実績がある手話通訳者は、事業団と雇用契約を結ぶことが可能(非常勤として雇用)となるよう就業要綱を改訂したことも大きな変更でした。この改訂の結果、55人の登録手話通訳者から申出があり、令和4年度の非常勤手話通訳者は計76人(令和3年度は21人)となりました。

◆**養成事業への協力**:(一社)横浜市聴覚障害者協会(以下:横聴協)が実施する手話養成事業のうち、手話奉仕員及び手話通訳者養成、横浜市中途失聴・難聴者協会(以下:浜難聴)が実施する要約筆記者養成については、感染予防を第一に講習会を再開、登録試験も手話・要約とも実施され、手話5人、要約は手書き4人、パソコン1人の方が合格されました。

◆**聴覚障害者相談事業**:年度当初は、ワクチン接種予約申し込みの対応で、連日満員状態でした。訪問による相談が困難になったことを契機に開始したビデオ通話機能による遠隔相談対応については、計372件の利用がありました。この対応を含めた相談件数は1,446件(昨年度1,210件)となりました。ラポール上大岡スポーツ事業課との共催事業「聴覚障害者対象健康学習会」については、当初3回実施予定のところ、まん延防止重点措置期間に当たり1回中止、計2回実施しました。

◆**普及・啓発事業**:聴覚障害者の身近な支援者を対象におこなっている出前講座については、令和3年度は民生委員・児童委員連絡会に向けて特に周知をおこない、計9件のご依頼に対応しました。その他、公式LINEアカウント「らぼらいん」を開設、毎週火曜に各種情報を発信しています。未登録の方は是非ご登録ください。

今年度も引き続き感染予防に努め、職員一同、関係団体の皆さまと力を合わせて、進んでいきたいと思っております。なにとぞよろしくお願いいたします。

派遣事業

令和4年度手話通訳者・要約筆記者事業連絡会を開催しました

4月17日(日)の午後、標記連絡会をオンラインにより開催しました。出席者は203人(オンライン参加者199人、来所者4人)でした。この連絡会は手話通訳者・要約筆記者と情提職員が、新年度の組織(通訳者・情提職員)体制、派遣事業に関する状況、研修計画、通訳業務に関する留意点を確認する場として、年度当初に実施しています。今回も、横聴協の井上良貞理事長、浜難聴の須山優江会長のご挨拶を事前収録して動画配信にするなど、なるべく参集を少なくし、感染対策を講じて実施しました。



はじめに施設長より派遣事業に関する令和4年度の国・神奈川県・横浜市の状況説明等を行いました。通訳業務に関する説明では、基本的な事項と特に留意してほしい点(変更・追加箇所)、また遠隔手話通訳等について話し、研修事業では1年間の研修計画について説明を行いました。

新年度の通訳者体制は、手話通訳者169人(非常勤76人、登録93人)、登録要約筆記者71人です。今年度も引き続き、事業の円滑な運営に努めてまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。

研修事業

非常勤手話通訳者専門研修を実施しました

2月14日(月)、昨年10月に引き続き国立障害者リハビリテーションセンター学院教官の木村晴美氏をお招きし、「日本手話と日本語～翻訳技術～」をテーマにZoomでのオンライン研修を実施しました。上記研修に、非常勤通訳者14人が参加しました。

事前に植物や昆虫、動物の固有名詞やその動きが入った4つの課題文の日本手話翻訳を考え、当日はろう者に伝わる日本手話に翻訳時のポイントをそれぞれ確認したりしました。

手話通訳士専門研修会に参加しました

3月11日(金)～12日(土)の2日間、国立障害者リハビリテーションセンター学院(埼玉県所沢市)の手話通訳士専門研修会がオンラインで開催され、今年度は全国から24人が参加しました。全体講義では「対象言語学・通訳翻訳論」というテーマで行われました。翻訳は「等価」を目指すこと、また手話の文法についての講義がありました。手話実技では書記日本語から日本手話への翻訳を行いました。

また読み取り通訳実技では何を話したか理解し自然に聞ける言語で聞き手に伝えるということを考えながら読み取り通訳文章をつくるなどの作業をしました。研修全体を通して改めて手話は言語であるということ、より深く学ぶことが出来ました。また実技を行うことで理論と実践を結びつけることが出来ました。今回の研修を通訳業務に生かしていきたいと思っております。

～ 職員の異動がありました ～

【新採用】

4月1日付 保科 隼希(ほしな としき) : (非常勤職員 派遣担当)
三澤 真知子(みさわ まちこ) : (非常勤職員 派遣担当)

相談事業

【聞こえの相談】事業を拡大実施します

平成23年度から実施してきた本事業ですが、周知や相談枠の確保等の課題もあり、ニーズに十分対応できているとはいえない状況もありました。

そこで、令和4年5月からは週2回（原則火曜午後、木曜午前）の相談枠を設け、予約を受けやすくします。また、関係各所への周知も広く行い、横浜市内の中途失聴・難聴者の潜在ニーズに幅広く対応できるよう体制を整えます。聞こえないことによる不安や生活のしにくさを取り除き、生活の質を向上させるため、聞こえやそれに関わる困りごと、補聴器等の相談を受け付けています。障害者手帳の有無は問いません。診断や補聴器の調整等を行いませんが、言語聴覚士（ST）による専門的な相談が可能です。相談の結果によっては補聴器相談医や関係機関へお繋ぎしています。

ご本人だけでなく、そのご家族や支援者からの相談も受け付けていますので、もし周りに聞こえで困っている方がいましたら、この事業をご紹介ください。また、支援者向けに聞こえに関する出前講座も実施しています。関心がおありの方は、ぜひ当施設までお問い合わせください。

情提事業

電話リレーサービス学習会に協力しました

3月21日（月・祝）、（一財）日本財団電話リレーサービス主催、県内難聴者協会・県内3聴覚障害者情報提供施設の協力にて難聴者・中途失聴者の方を対象に電話リレーサービス学習会が横浜ラポールで開催されました。

当日は、（一財）日本財団電話リレーサービスの上嶋氏からサービスの使い方や利便性、利用時のマナー等をご紹介いただきました。講習会の途中には、デモ体験があり、実際に参加者が、文字入力でオペレーターを介して聞こえる人と電話をしました。質疑応答の後、希望者には利用登録のサポートも行いました。

日本財団では、現在、難聴者・中途失聴者の方は音声で話し、相手の音声のみを文字に変換してくれるサービスを検討中とのことでしたが、参加者の方々からは、このサービスの開始を待ち望む声が多く聞かれました。電話リレーサービスの認知度は徐々に高まっており、聞こえの程度に関わらず、誰もが普通に電話ができる時代がすぐそこまで来ています。当施設でも引き続き情報提供していきたいと思っております。



普及・啓発事業

浜の会茶話会に参加しました

4月18日（月）浜の会の茶話会（主催：神奈川ろうヘルパー 連絡会かもめの会「浜の会」、横聴協）が横浜市西区福祉保健活動拠点フクシアで行われ、スタッフを含め17人参加していました。当施設から職員1人が参加し、今回は情提の職員体制の変更（相談員が1名増員になったこと）についてのお知らせと、事業の内容についての説明を行いました。普及・啓発の内容で、出前講座などを実施し、聴覚障害者に対する理解を広めるために公的施設の方や地域ケアプラザなどを対象に講師を派遣していると話をしたところ、マンションの管理組合や地域の自治会にも呼んでほしいという声を頂きました。隣人との付き合い、管理組合や自治会との関わり方などの話をしてくださり、ニーズがあると感じました。

そのあとはお互いの交流を深めるため、「横浜」という手話が今の形になる前はどんな表現だったか、また戦後の横浜の街にいたメリーさんについての話をしていました。

参加者の経験談を聞き、横浜の歴史を感じる貴重なひとときになりました。今後も継続して参加していきたいと思っております。





(令和3年度)

■通訳者の派遣・紹介人数

内容	手話通訳	要約筆記	合計	R2年度	相談事業	実件数	延べ件数
医療・保健	5,878	75	5,953	5,360	医療	231	441
司法	31	25	56	30	職業	34	70
教育・保育	497	13	510	433	教育	0	0
労働・雇用	510	46	556	313	住宅	23	48
社会生活	1,487	33	1,520	1,757	生活	232	393
自己啓発	111	10	121	76	福祉	171	403
福祉推進	870	885	1,755	1,047	法律	35	81
介護保険	881	3	884	0	聞こえ	7	10
他都市	53	12	65	53	合計	733	1,446
合計	10,318	1,102	11,420	9,069	R2年度	588	1,210
R2年度	8,542	527	9,069				

■聴覚障害者の相談

■通訳者の現任研修

研修種別	回数	参加人数	R2年度	映像・字幕制作	()はR2年度
手話研修	36 (31)	933 (745)		自主制作作品数	74 (65)
筆記研修	29 (23)	579 (358)			

■映像・字幕制作 ()はR2年度

■遠隔手話通訳事業

区	件数	区	件数	区	件数	派遣先	派遣件数	参加人数
鶴見	3	西	1	栄	14	国・県・市機関	0	0
神奈川	14	南	1	旭	10	介護関係団体	9	182
港北	0	港南	2	戸塚	3	教育機関	3	24
緑	10	金沢	0	瀬谷	3	企業等	0	0
都筑	9	磯子	1	泉	0	聴覚障害者団体	6	83
青葉	0	中	1	保土ヶ谷	7	その他	3	45
				市庁舎	5	合計	21	334
				件数合計	84		(7)	(114)
					(60)			

■普及・啓発事業

■視聴覚機器の貸出

物品名	保有数	貸出件数	物品名	保有数	貸出件数
スクリーン	6	64	OHC	5	84
ヒアリングループ	2	10	ブルーレイディスクレコーダー	1	8
液晶プロジェクター	7	129	PC文字通訳用機器	6	155
テープレコーダー	3	21	PC文字通訳用機器個人用	2	18
ビデオカメラ	1	26	合計 (R2年度)		515 (655)



3月

- 1 手話試験委員会 (横聴協)
- 5 通訳者説明会 (非常勤関係: オンライン)
- 5 手話養成基礎選考会 (横聴協)
- 9 港町診療所訪問
- 11~12 手話通訳士専門研修会 (国リハ: オンライン)
- 12 手話養成I選考会 (横聴協)
- 14 非常勤手話通訳者会議 (ハイブリッド)
- 19 手話養成II選考会 (横聴協)
- 21 日本財団電話リレーサービス学習会 (浜難聴と合同)

- 23 主管課定例会議
- 24 通訳者説明会 (救急関係: オンライン)
- 26 手話養成運営委員会・講師会 (横聴協)
- 28 区役所配置通訳説明会 (オンライン)
- 28 衛生委員会
- 31 要筆養成委員会 (浜難聴)
- 4月
- 2 手話養成開講式 (横聴協)
- 12 ラポール職員研修
- 17 通訳者新人オリエンテーション (ハイブリッド)
- 17 通訳者事業連絡会 (ハイブリッド)
- 18 浜の会茶話会参加 (西区)

- 19 デフリンピック選手団市長激励会
- 19 要約筆記者一年次研修
- 22 手話養成運営委員会
- 23 横浜シティユニオン講師派遣 (神奈川区)
- 25 衛生委員会
- 26 出前講座 (青葉台地区民生委員・児童委員協議会)
- 22 遠隔要約筆記試行 (2回目)
- 22 手話養成運営委員会 (横聴協)
- 26 要約筆記者一年次研修
- 27 主管課定例会議
- 28 J-TALK手話利用施設情報交換会

横浜ラポール聴覚障害者情報提供施設だより<<横浜ウェブ>>

発行日: 令和4年4月28日

発行者: (社福) 横浜市リハビリテーション事業団 横浜ラポール聴覚障害者情報提供施設

〒222-0035 横浜市港北区鳥山町1752 TEL. 045-475-2057 FAX. 045-475-2059

ホームページ <http://www.yokohama-rf.jp/rapport/jyoutei/>